

## 背景

- ・花や植物を育てる中で、季節ごとの変化・四季に触れてきた。
- ・散歩や自然との出会いを通して、植物生き物への関心が高まっていった。
- ・昨年度の年長児が植物を育てたりダンゴムシのお世話をしたりする姿を見ていた事で、今年の年長児も動植物に興味を示し一緒になって生き物を育てる姿が多かった。その為、今年度は四季を通して散歩や園での活動等で様々な自然を観たり触れたりする機会を増やしていった。

## 2025年度実施内容のまとめ

### 実施



この花は何ていうの？花言葉ってなあに？  
害虫を寄せつけない匂いのある花もあるんだって！

### 実施



カブトムシのツノ、すごく強そう。  
ツノがあるということは...危険生物？

### 実施



この実の中はどうなってるんだろう。  
これには毒はあるのかな？図鑑で調べてみよう！

## 子どもたちの興味

- ① 花を育てたり、桜に触れたりする中で、植物の名前や花の特徴に興味を持ち、色や形、香りの違いに目を向ける姿が見られた。季節の植物に触れる中で、害虫を寄せつけない匂いのある花にも興味を持つ。
- ③ カブトムシを幼虫から実際に育てる中で、ツノの形や、孵化したもの・しなかったものの違いに気付き、一匹一匹に名前をつけて大切に扱う姿が見られた。植物だけではなく、虫にも興味を持ちツノの形を見て危険生物にも興味を向
- ⑤ 「この花は危険生物？」「これは毒があるかな？」身近な植物に触れる中で、中には注意が必要なものがあることに気付き、危険な生き物や植物について知ろうとする姿が見られた。

## 環境づくり

- ② ・花や自然物に日常的に触れられる環境を整え、水やりや世話、制作などを通して、季節の変化を感じられる経験を重ねた。  
・散歩で見つけた植物を持ち帰り、観察できる場を設けた。  
・花の図鑑を保育室に置き、自ら調べられるようにした。
- ④ ・カブトムシや夏野菜を継続して育てられるよう環境を整え、触れたり近くで観察したりする機会を大切に。  
・孵化の違いやツノの形など、気付きにつながる場面では、保育者が言葉を添えながら見守った。
- ⑥ ・危険生物図鑑を身近に置き、気になったときにすぐ調べられる環境を整えた。  
・危険生物クイズや問いかけを通して、特徴や違いに目を向けながら考える経験につなげた。  
・異年齢での関わりの中で、乳児クラスの気付きや興味も共有できるよう関わった。

## 2025年度振り返り

園全体で始めた取り組みが、四季を通じた自然との関わりの中で、年長児の興味・関心を中心に深まっていきました。花育から始まり、観察する・触れる・育てる経験を重ねる中で、調べたり考えたりする姿が増え、危険生物への探究へとつながりました。

## 次年度に向けて

今年度の実践を踏まえ、子ども一人ひとりの気付きや疑問を出発点とした探究活動を、年齢や発達に応じてさらに広げていきたいと考えています。子どもたちの姿や興味の変化を丁寧に捉え、その時々に応じた環境の工夫や関わりを重ねながら、「すすすく」と「わくわく」が持続する保育を行っていきます。

## まとめ



- ・花育から始まった自然との関わりは、四季を通して観察する・触れる・育てる経験へと広がり、子どもたちの気付きや疑問を出発点に探究が深まっていた。
- ・危険生物クイズなどを玄関に掲示することで、年長児の取り組みが他のクラスや保護者にも伝わり、興味が広がった。また、園と家庭がつながるきっかけにもなった。
- ・園全体で取り組む中で、年長児の興味・関心を中心に、身近な植物や生き物への関心が危険生物への探究へとつながった一年だった。今後は、この経験をきっかけに、水族館への遠足や「超危険生物展」への訪問を通して、さらに興味や学びを深めていきたい。
- ・保育者はすぐに答えを伝えるのではなく、「どう思う」「どうしてだろう」と問いかけながら、子どもたちが自分で考え、調べ、確かめる経験を大切にしていこう。